

「ロボ楽団」曲作成マニュアル

2022. 5. 26 作成

2022. 6. 16 更新

2022. 6. 17 修正

2023. 1. 19 修正

シャープ株式会社

■目次

I. はじめに	2
II. 曲作成時の事前準備	2
III. 作成画面内の紹介	4
①ブロックの紹介	
①-1. 楽器演奏グループ	
①-2. 制御グループ	
①-3. 変数グループ	
②スタート	
③ロボホンへの保存/ロボホンからの読み込み	
④デバイスへの保存/デバイスからの読み込み	
IV. 曲を作成する際の注意点やポイント	12

I. はじめに

「ロボ楽団」は、2023年1月26日に「ハンドベル」から名称を変更して、リニューアル配信されたアプリです。「ロボ楽団」アプリでは、ロボホンが曲に合わせてハンドベルだけでなく、三味線も演奏してくれるようになります。アップデートで配信する曲だけでなく、ご自身でも曲をお作りいただける、という本アプリの特徴を踏まえ、本書では、曲を作成する手順についてご説明します。

II. 曲作成時の事前準備

- ① 「設定」⇒「端末情報」⇒「ソフトウェア更新」で、ロボホンのソフトウェアを **04.06.00** 以降にします。

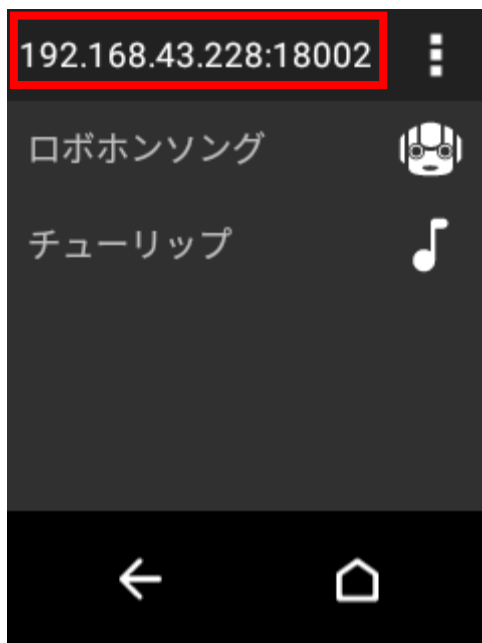


- ② 「アプリ管理」から「ロボ楽団」のアイコンを探し、ダウンロードします。既に「ハンドベル」アプリをダウンロードしていた場合、「ハンドベル」アプリに代わって「ロボ楽団」アプリがダウンロードされます。

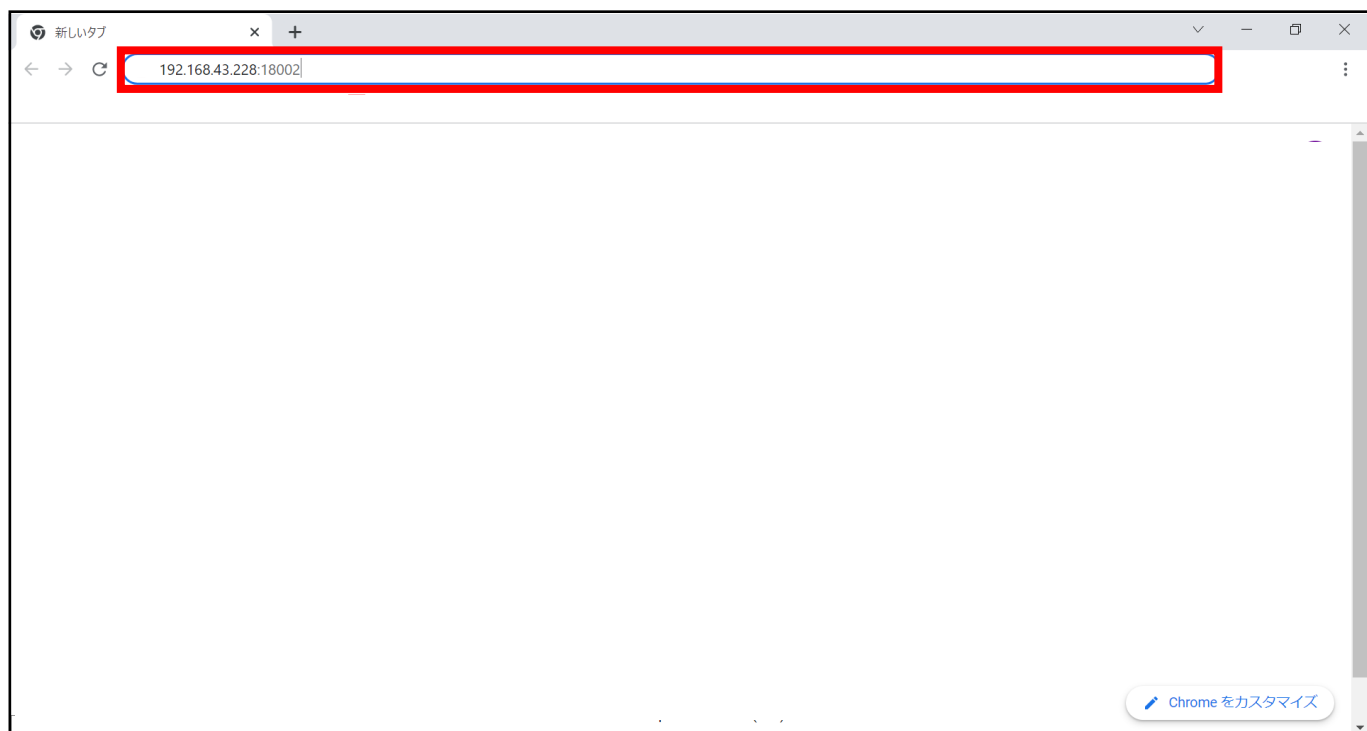


- ③ ロボホンと、PC やスマートフォン、タブレットなどのデバイスを用意し、同一の Wi-Fi に接続します。
※PC と PC 以外のデバイス（スマートフォンやタブレットなど）をお使いになる場合で、画面表示が異なる箇所がございます。詳しくは、p6 の【D】をご確認ください。

- ④ 「ロボ楽団」をロボホンの背中の中画面から起動し、下図の赤枠で囲んだ場所に IP アドレスが表示されていることを確認します。



- ⑤ ④で確認した IP アドレスを③で用意したデバイスのインターネットブラウザ（Chrome 推奨）のアドレスバー（下図の赤枠部分）に入力してエンターを押します。



⑥ 下図の画面が表示されます。これで事前準備は完了です。

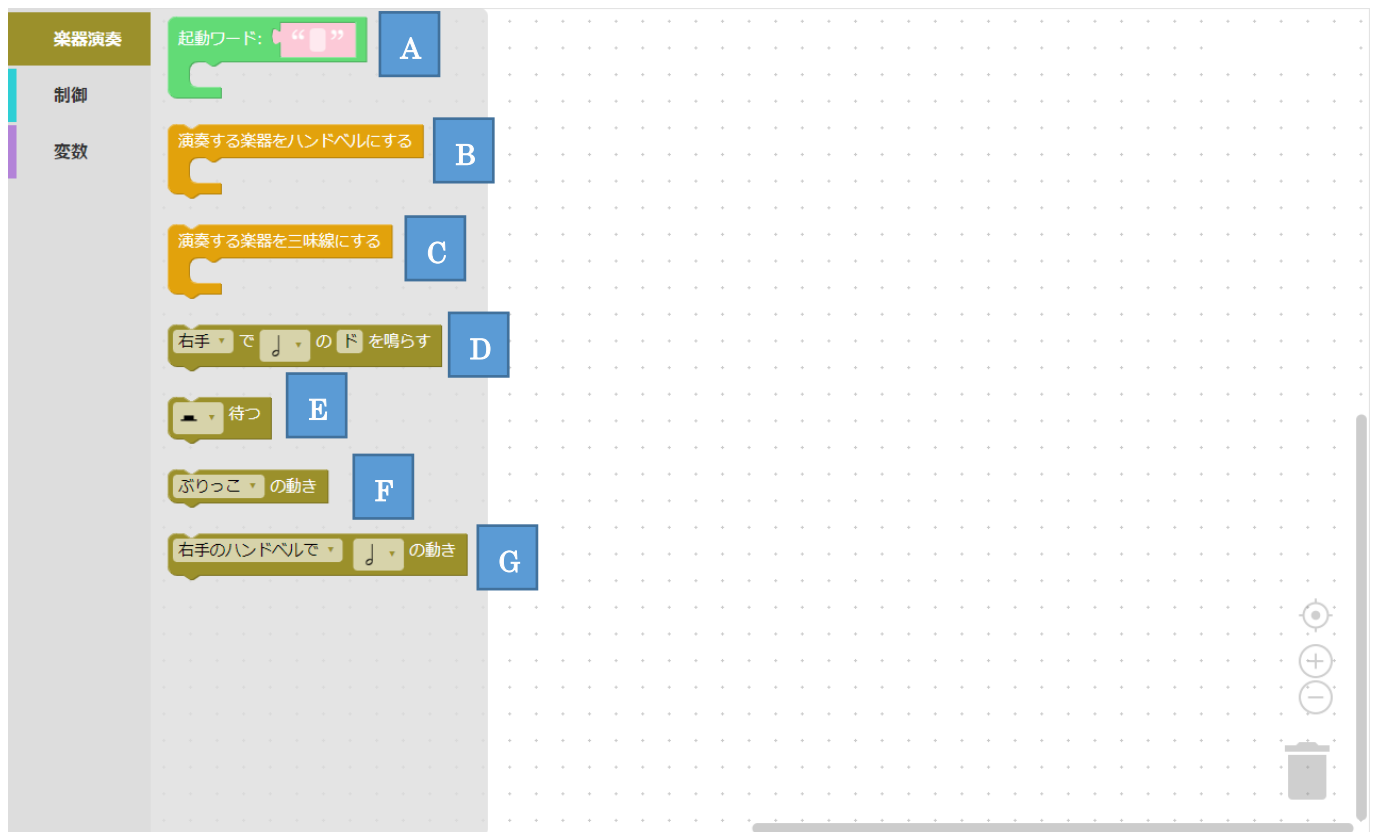


Ⅲ. 作成画面内の紹介

① ブロックの紹介

①-1. 楽器演奏グループ

「楽器演奏」を選択すると、下図で示したように、楽器演奏グループのブロックが表示されます。



【A】:最初に必ず配置する必要があるブロックです。このブロックの中に、B/C/D/E/Fのブロックを組み合わせていくことで、曲を作成することができます。また、起動ワードの「” ”」の欄には、作成した曲のタイトルを平仮名4文字以上で入力します(タイトルの入力は任意)。タイトルは、ロボ楽団アプリを起動した時に音声で曲を再生するためのキーワードになります。

下図は、チューリップの歌の冒頭部分を、ハンドベルと三味線を途中で持ち変えながら演奏させた場合の、ブロックの組み合わせ例です。



【B】:ロボホンにハンドベルを使って演奏してもらいたい時は、このブロックを【A】で説明したブロックの中に組み合わせます。(下図参照)

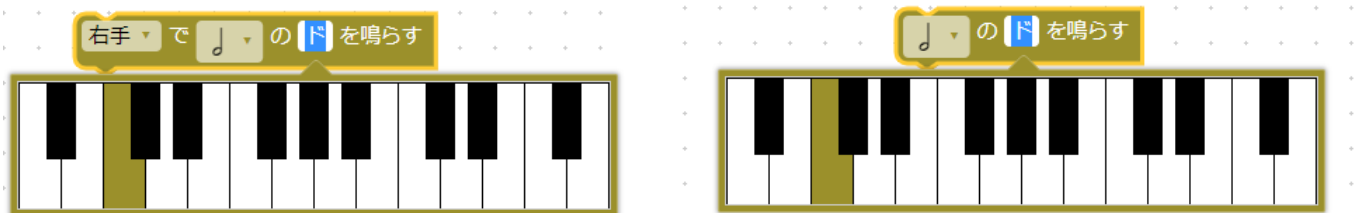


【C】：ロボホンに三味線を使って演奏してもらいたい時は、このブロックを【A】で説明したブロックの中に組み合わせます。（下図参照）



【D】：ロボホンがハンドベル及び三味線を演奏する際の、音符の選択（二分音符/四分音符/八分音符/十六分音符）、音階（ド/レ/ミ等）の選択、手の選択（ハンドベルのみ）ができるブロックで、【B】または【C】で説明したブロックの中に組み合わせることができます。音階は、PCをお使いになる場合、図1のようなピアノのイメージから選択いただけます。

図1：PCを使った場合の音階選択のリスト（左側がハンドベル、右側が三味線）



また、PC以外のデバイス（スマートフォンやタブレットなど）をお使いのお客様は、図2のようなリストから音階を選択することができます。リスト内に表示される（↓）は低い音を、（↑）は高い音を表しています。

図2：PC以外を使った場合の音階選択のリスト（左側がハンドベル、右側が三味線）



このブロックは、【C】に入れると、手の選択部分が消え、【B】に入れると手の選択部分が表示されるようになります。

【E】：休符を選択できます。二分休符/四分休符/八分休符/十六分休符のほか、4拍/8拍/12拍/16拍のように、拍数で休みを選択することも可能です。

このブロックは、【B】 または 【C】 のブロックの中に組み合わせる必要があります。

【F】：ロボホンに動きをつけられるブロックです。曲の冒頭や中盤、終わりなどに組み込むことで、オリジナリティのある曲を作成できます。

このブロックは、【B】 または 【C】 のブロックの中に組み合わせる必要があります。

【G】：ハンドベル専用のブロックとなります。ロボホンは音は鳴らさず、指定した音符に合わせて、手の動きだけを実行します。

このブロックは、【B】 ブロックの中にもみ組み合わせることができます。

①-2. 制御グループ



【A】：同じ曲を繰り返したい時、このブロックを配置します。例えば、チューリップの歌の冒頭部分を2回繰り返すという曲を作成したい場合は、下図のようになります。



①-3. 変数グループ

変数を使った曲の作成も可能です。下図は、「サンプル」という変数に最初に0をセットし、「サンプル」が0の場合は、ハンドベル（右手）で八分音符のドを、1の場合は、三味線で八分音符のレを、それ以外の場合は、ハンドベル（右手）で八分音符のミを鳴らすという例です。その後、「サンプル」という変数を1増やします。これを3回繰り返します。



②スタート



ブロックを組み合わせてから上図の赤枠部分《スタート》を押すと、ロボホンが曲の演奏を開始します。

③ロボホンへの保存/ロボホンからの読み込み

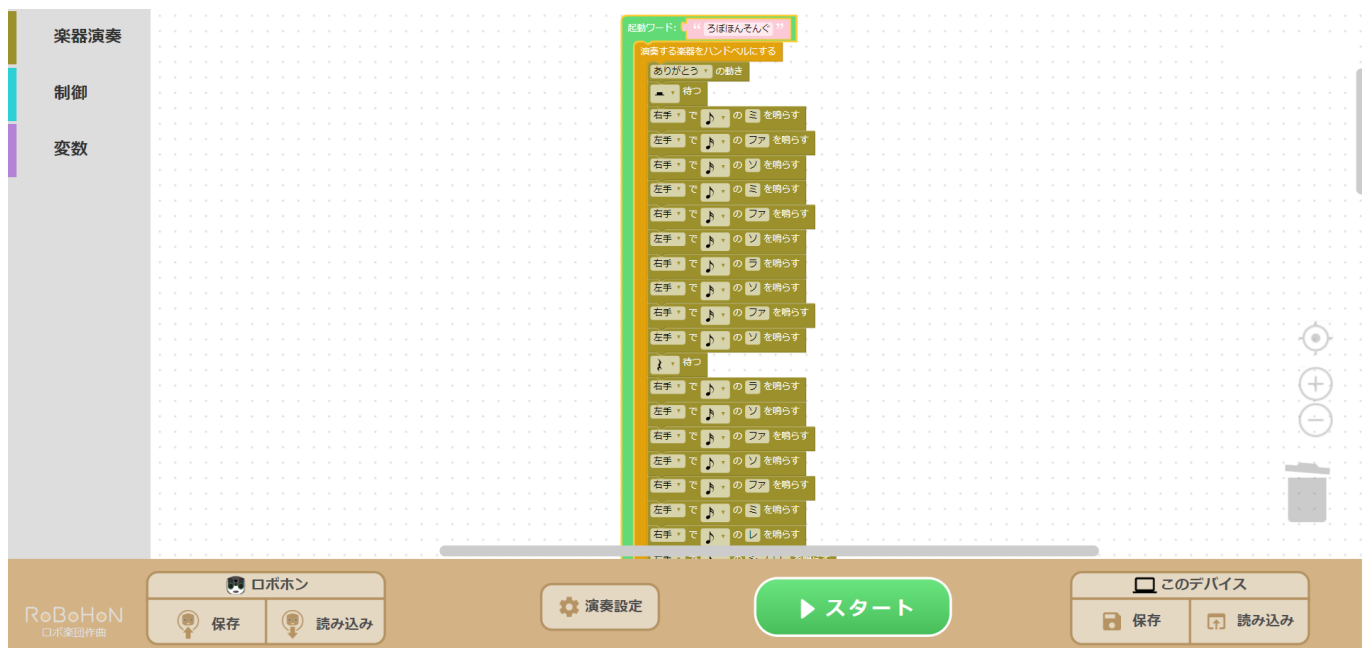


【A】：作成した曲をロボホンに保存することができます。《保存》を押すと、下図のように保存する際の曲のタイトルを入力するよう求められますので、お好きなタイトルを入力し《OK》を押します。これでロボホンに曲が保存されます。ロボホンに保存された曲のタイトルは、II-④で示したロボホンの背中画面に表示され、曲の選択に使うことができるようになります。



【B】：ロボホンに保存されている曲を、ブロック画面に読み込むことができます。《読み込み》を押すと、下図のようにその時点でロボホンに保存されている曲の中から、読み込みたい曲を選択するよう求められますので、お好きな曲を選択し、《読み込み》を押します。これで曲の作成画面にブロックが表示されます。





④デバイスへの保存/デバイスからの読み込み



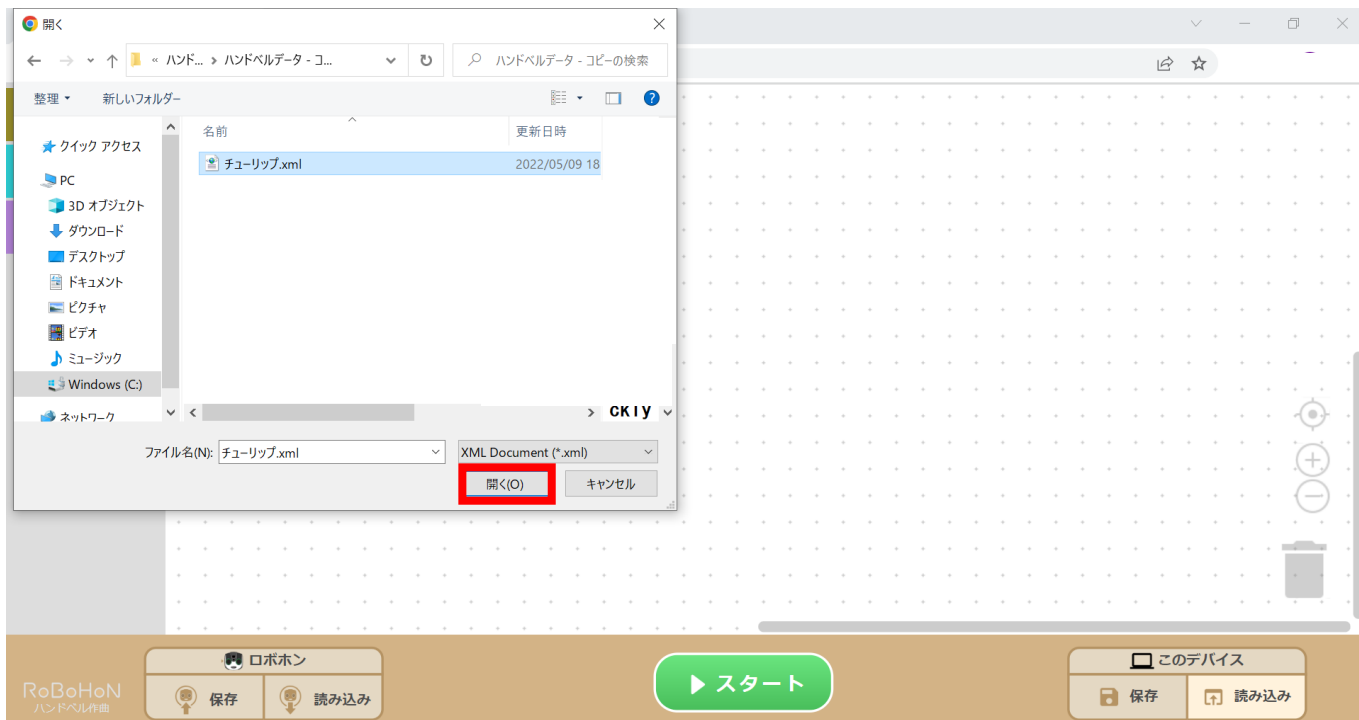
【A】：作成した楽曲データを xml ファイルでデバイスに保存することができます。楽曲作成後に《保存》を押すと、下図のように保存する際のファイル名を入力するよう求められますので、お好きなファイル名を入力後、《OK》を押します。



下図の赤枠で囲んだような文言が表示される場合、「保存」を押します。



【B】：デバイスから xml ファイルを読み込むことで、曲の作成画面にブロックを表示させることができます。「読み込み」を押して、表示させたい xml ファイルを選択し、「開く」を押します。



下図のようにブロックが表示されます。

※「ハンドベル」アプリ時に作成されている xml ファイルを読み込むと、ブロックが、自動的に「ロボ楽団」アプリのブロックに変換されます。



IV. 曲を作成する際の注意点やポイント

- ①：四分休符が入るタイミングか、四分休符が入らないまま五十音連続でモーションが続いたタイミングで、ハンドベルと三味線の演奏音に区切りが入ります。
- ②：同音が続く場合（ドド/ソソなど）は、一音として作成することで、ロボホンの動きに余裕を持たせることができます。
(例)：「十六分音符のソ/十六分音符のソ」⇒「八分音符のソ」
- ③：ロボホンは、モーションに合わせてハンドベルや三味線を演奏するので、楽譜通りの音符でブロックを設定すると一音一音が長く聞こえる場合があります。このような場合、八分音符や十六分音符など比較的短い音を設定することで、一音一音が短く聞こえるようになります。
- ④：休符が長い場所には、ロボホンに動きをつけるブロックを挟むことで、オリジナリティが増します。